

## 平成26年度 協会創設40周年記念の岐阜県歴史資料保存利用講習会を開催

去る10月17日（金）に、岐阜県シンクタンク庁舎大会議室において、岐阜県歴史資料保存利用講習会を開催しました。当日は、10市町村11名の職員を含めて延べ107名の方が参加され大変盛会となりました。

この講習会は、市町村史の編集が盛んであった頃、古文書の扱いを学ぶための講習会として始められたものです。市町村史の編纂が一段落して以降は、各市町村の歴史資料の保存や利用、歴史事業の推進等について実践を交流しあう会として実施してきました。

開会セレモニーは、岐阜県歴史資料保存協会小川敏雄会長の挨拶のあと、来賓としてご臨席いただいた岐阜県総務部法務・情報公開課長内木禎様と岐阜県歴史資料館長野口昌良様よりご挨拶をいただきました。また、市町村会員代表の富田成輝可児市長様から祝電をいただき、皆さんに披露させていただきました。



岐阜県歴史資料保存協会小川敏雄会長の開会挨拶



満席となった会場の様子



県総務部内木禎法務・情報公開課長の挨拶



野口昌良岐阜県歴史資料館長の挨拶

今年は、当会発足40周年目に当たり本講習会も記念行事の一環として実施し、午前中は、会員や歴史に関心をもっておられる一般県民の方を対象に、歴史講演会として岐阜大学名誉教授の松田之利先生に「明治維新と尾張藩」と題して講演をしていただきました。聴衆の皆さんは、時間を忘れて松田先生のお話に引き込まれておられました。

講演をされる岐阜大学名誉教授松田之利先生



午後は、古文書等の保存業務を積極的に進めている市町村の実践例を交流し合うことによって、資料保存に対する意識の高揚を図ることを目的に「岐阜の文化力と史料保存」というテーマのシンポジウムを実施しました。

最初に大垣市図書館歴史研究グループ主幹の早崎善晴氏に「大垣市史編纂と史料保存」と題して基調発表をしていただきました。それを受けて、岐阜女子大学教授で本会顧問の丸山幸太郎氏の司会進行により、パネルディスカッションを実施しました。パネラーは、岐阜県歴史資料館嘱託職員で本会会長の小川敏雄氏が「岐阜県歴史資料館の史料保存と利用」について、高山市在住で本会副会長の北野興策氏が「国府町史編纂と史料保存」について、可児郷土歴史館主任の大海崇代氏が「可児市史の編纂と史料保存」について、中津川市在住で本会理事の仙石敦淑氏が「中津川市の史料保存」について意見発表をされました。各パネラーの意見発表の中から丸山氏が史料保存に関わる様々な課題を出され、それについてパネラーのみならず会場からも意見をいただき、全参加者の皆さんに歴史資料への関心を高めていくために大変良い話し合いがなされました。



基調発表をする大垣市図書館の早崎善晴氏



シンポジウムの様子



意見発表をする可児郷土歴史館の大海崇代氏



会場からも活発に意見が出されました

また、昼休みには古書書籍等の資料交換会を実施し大変盛況でした。下の写真は、**資料交換会で熱心に資料を見る参加者の皆さんの様子**です。

